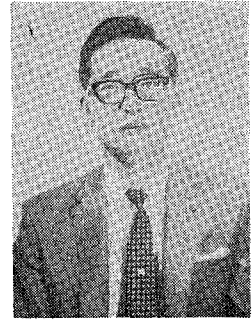


# 流行とわたし

札幌・査定 指方 英佑



私が日常使っている広辞典によれば流行とは「一時広く行われること」とあり英語で云えばファッションとある。「流行の最先端を行く人」といえば一般的にはモダン好みの現代人、特に若い層の最近のスタイルや服飾を連想するのが普通ではあるまいか。流行は流行語となったり流行歌リズムとなるなど風俗、習慣、ものの考え方など社会生活全般に見られる現象であり、その時代の世相を反映したものといえるが、最も象徴的な形をとるのが服飾、俗にいうファッションであろう。

現代はヤングメンスファッション全盛の時代である。多分にマスコミの宣伝や商業主義に踊らされておりの本人は個性的と自負しているにも拘らず他人の目から見ると皆同じように見えるコッケイな一面もあるが、若い世代、特に女性が化粧服飾などにたくみに流行をとり入れ自己のものにしてしまう適応能力は我々

男性の及ぶべくもない。

一方男性の特に我々サラリーマンとは切っても切れぬ関係の背広スタイルは、十年一日の感があり余りにも没個性的である。ドブネズミ色の背広を着たサラリーマンは意識の上ではビジネスマンに変貌をとげようとしているが、それにふさわしい色やスタイルを積極的にとり入れようとしている人は少ない。もったもたフィスの中では限度があろうが、人に不快感を与えない程度の流行を採用り入れるシャレツ気は必要ではあるまいか。たまたま現代流行のレジャーなどで色とりどりのウェアを着ている先輩同僚を見るとオヤッと思う程若々しく魅力的な一面を発見するのである。

流行はマスコミが種々のマスメディアを媒体として創りあげるもので売らんかなの商業主義に結びついたものである。それは日常生活に遠慮なく一方的に入り込んで来るものであるから私にとっても全く無縁なものたり得ない。又流行は広く行われるものであるが、一時的なものであるの命脈はまことにハカないものである。従って現代に生きる者として私は流行が何であるかを感じるセンスを持ち続けたいと思うがそれを無差別的に猿まねする事には抵抗を感じる。

やがて終戦記念日も近ずいて来る

が、流行もへちまもなかったあの暗かった時代を思い起し、流行がマスコミ等で派手にとりあげられる平和な時代に生活出来る事の有難味を感じるのである。

仙台・総務 佐々木由美子



どういうわけかファッション流行のイメージが浮かんできてしまう。ちよっと街を歩けばミニ・ミディ・マキシ姿に一度はおめにかけられるし、私の感覚も又そんな姿を極当り前の様に自然に受け入れている。例えそのものずばりは試みなくとも心持ち衿にとり入れてみたり、ミディ丈のコートにも慣れ、いつしかパンタロンまで揃っている始末。ファッションに敏感であつてもなくても、所謂センスのよい人に出会うと何となく気がいいし、へんなものでもその人の人間性や内面的なものにまで興味を持つてしまう。

センスのあるとかないとか言うのは、かなり幅広く使われているけれど、

ど、本来の言葉の意味は別としてあたかも日本語のごとく定着し、その場その場をうまく捕えて使い分けられていることばも少ないと思う。今は又少し違った意味でフィーリングという言葉が出回っているけれど、やはり世の中の移り変わりと共にその世代にぴったり合ったような言葉なり何なりが新しく生まれ、そして変つていく必然性というのか定美的なものを多分に感じないわけにはいかない。と同時にこれらの移り変りを逸早く、しかも容易に提供してくれるマスコミの威力をみる時あらためて流行という言葉の持つ意味を考えさせられる。

又、良く言われる熱し安く冷め安いいという言葉も上手く状態を捕えているもので大なり小なりそれぞれ異なることかも知れない。

いずれにしても流行というものに関心はあつても過敏であるのは良しとする所でないし、やはり何と言つてもセンスに気の配れる、そして自然に行き届いているようなそんな自分を養いたいと思う。

